

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

2013/8/31

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103094号
法人名	有限会社 コウライメディカル
事業所名	グループホーム しらゆり
所在地	鹿児島市高麗町21-28 (電話) 099-251-6633
自己評価作成日	平成25年8月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に中学校や専門学校があり、明るい笑い声が通りから聞こえてくる風通しの良い、明るい3階建ての施設です。この環境の良い中で利用者が互いに家族の一員として支え・協力し合い、笑顔の絶えないグループホームづくりに取り組んでおります。職員が一方的に支援するのではなく、利用者とともに学び、ともに楽しみを持ち季節ごとのイベントや誕生日など毎日が思い出に残るよう頑張っております。利用者の皆様には勿論、家族の皆様にも安心して相談しやすい関係づくりやホームの環境づくり努力し、利用者の皆様が過ごしてこられた生活感を大事に、不安なくホームでの生活が送れるように支援しています。利用者とのコミュニケーションを大事にするためにも職員間のコミュニケーションを大事に、笑い声が響くホームを常に心がけています。

グループホーム「しらゆり」は周囲に中学校や専門学校、公園、病院などがあり、同系列の他施設とも近く、散歩を兼ねてリハビリに通うことのできる恵まれた環境のなかに立地している。3階建てのホームの1階には大きな仏壇が据えられ利用者の心の安らぎとこれまでの生活の継続を支援する取組みが伺われる。管理者と職員は利用者や家族の思いを汲取るための勉強会や研修にも熱心であり笑顔絶やさず家庭的なケアのサービスを目指している。利用者は残存機能を促す手伝いにも積極的であり、洗濯物をたたんだり、大きな声で歌を歌い、食前の嚥下体操も笑いながら取り組んでいる。協力医療機関との連携も取れ、専門医の往診もあり家族の安心と安全が得られている。母体である法人も利用者が地域の一員であるように地域の夏祭りやお寺参り、四季を通しての行事やイベントにも積極的であり、家族交流会にも多くの参加がある。地域密着を踏まえ法人全体でホームを支え地域とともに暮らし続けられるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ネームプレートやリビング・スタッフルームに理念や基本指針を提示し、定例会や朝の申し送りの度話し合いを持ち、ケアのスキルアップにつなげている。	一年に1回、理念の見直しを行い、ホール、スタッフルーム、ネームプレートにも提示され、理念のなかの「一カ所を重点に置いた振り返り」を行っている。職員はその理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事や活動に参加。また小学校の文化祭等の声掛けに参加させていただくように心がけている。朝の散歩時など近隣の方への笑顔のあいさつを心がけ、いつでも来訪していただける環境づくりをしている。	朝の散歩時の挨拶や近隣の専門学校の実習、中学生の職場体験の受け入れ、幼児から成人までのサマーボランティアの交流は利用者も楽しみとなっている。地域の夏祭り、防災訓練に参加したり、事業所のイベントを同系列のホームで開催している。地域の一員として日常的な交流がみられる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣の方々とのコミュニケーションを図り、福祉に通じる様々な相談など受け入れられるよう心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加の方々より意見や助言・質問をいただいた事を議事録にまとめ、カンファレンスや職員会議での議題に挙げ、サービスの質の向上や意識の向上に向けている。	包括支援センター職員、家族代表、民生委員、職員で開催している会議では、家族向けの認知症の勉強会や訪問歯科医との連携で口腔ケアも取り入れている。出された意見やアドバイスは議事録に記載され速やかに、サービス向上につなげている。	運営推進会議での意見を真摯に受けとめ活かしているが、地域の情報や係わりが少ないと思われる。町内会長への積極的な呼びかけで、地域との交流が頻繁になり身近な情報も得られ更なるサービス向上にむけた取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加のお願いや疑問等は電話や訪問時にお聞きしている。	市町村担当者は2、3年で交代になるが前任者から新担当者へ連絡を取り、ホームの実情や要望を伝えている。リクライニングシート椅子の順番なども知らせてくれる。事故報告もされ、積極的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やカンファレンスで理解を深め、椅子に座らせたきりにならないよう配慮し、個々に応じた安全・安楽なケアの方法をその都度話し合うよう努めている。本人の意思や身体状況を考慮し、行動の制限や妨げにならないよう見守りや声掛けしている。	職員は定期的に勉強会を開き、身体拘束をしない禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。利用者を4グループに分けることで細かい見守りと声かけができ、外出傾向の利用者は制止せず同行し、エレベーターの使用時は必ず一緒に乗るなど安全で自由な暮らしのケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やカンファレンスで理解を深め、椅子に座らせたきりにならないよう配慮し、個々に応じた安全・安楽なケアの方法をその都度話し合うよう努めている。本人の意思や身体状況を考慮し、行動の制限や妨げにならないよう見守りや声掛けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で勉強し、支援体制を整えてい来るように理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、入居時に重要事項説明書の項目ごとに説明を行い、同意を得るようにし、疑問・不安などの質問をその都度お受けしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設定し、毎週の職員会議の際確認をしている。家族会や来訪時にアンケートや意見をいただき、ミーティングで話し合いサービスに反映できるようにしている。	面会時や家族交流会で食事をしながらホーム独自のアンケートを無記名でお願いし、家族の意見、要望を聞きだしている。介護相談員の受け入れも実施し出された意見は運営推進会議や定例会で報告され運営に活かしている。利用者の主治医の話を一緒に聞くことも取り入れた。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週の職員会議や日々の業務中の必要時に意見交換を行い、スキルアップに努めている。	管理者は職員の意見や提案を職員会議で聞く機会を設け運営に反映させている。福祉用具や、体位を保つためのクッション購入、口腔ケアの取り入れも可能となった。資格取得にも力を入れ職員の働く意欲や質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に同系列法人の関係者で報告・問題提示を行い、情報の共有・見直しを図り職場環境の整備や向上につながるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修予定を毎年作成し、研修を行っている。外部研修の案内を行い、参加のきっかけづくりをし、他事業者間との情報交換できる場を作るようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人系列のグループホームの管理者同士の交流や会議を定期的に行っている。また研修等で知り合った方々と情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の機会を多く持ち、情報収集に努め思いや背景・希望を把握。安心していただけるようコミュニケーションの構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅や施設を訪問し、事前の面談を重ねることで、家族や本人の意向・思いを知ることによって信頼関係の構築につなげ、職員間で共有することにより、より良い支援に行こうと努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人はもとより家族の希望や以降を確認し、地域包括センターや福祉用具関係者・民生委員に相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下こしらえや洗濯物たたみなど生活リハビリをできる範囲でお手伝いいただきながら会話の時間を持つ事で時間の共有や協力し合える関係づくりを築いていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を月1回の通信で家族に確認していただき、入居者の要望・家族の相談など必要時に行い、他科受診や外出などに協力をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や顔なじみの方々にも訪問していただけるよう、交流会の参加ご案内の送付や、なじみの方々にも希望のあるときは通信を送付している。	友人、知人が訪問したり電話や手紙の支援、デパートに出かける利用者の支援もしている。小学校の運動会の見学、公民館での文化祭に出かけたり、得意な書初め、生け花などこれまで大切にしてきた生活習慣を継続できる支援である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席に配慮し、会話やコミュニケーションがとりやすいよう工夫し、共通の会話を行うことで協力し合い孤立することの無いように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去された方や家族にも定期的に面会や電話など行い、関係が途切れないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で感じる動作や表情よりニーズや不安など観察し、ご家族に相談・協力を得ながら本人の声なき声をも大切にし、改善に努めている。	入居時に家族から本人の暮らし方の希望を聞き、日常生活の様子や会話で意向の把握に努めている。食事の時間も自由であり、訪問マッサージを定期的に受けるなど、本人本位の対応である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・親族より情報を得、性格や生活歴などの情報を得るようにし、職員間で共有し合えるように努めている。	/	/
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子やパターンを知るため、申し送りの徹底や、職員会議棟で情報交換を行い、本人の可能・不可能を把握し、支援に努めている。	/	/
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望・意見を伺い、本人が自分らしく・望む生活が送れるよう、職員会議やヒヤリハットなど内容の確認や見直し、計画作成に反映できるようにしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を個別に詳細に分析し、家族の支援やヒヤリハットの活用が活かされた介護計画である。本人、家族、職員は現状と介護計画がかみ合っているか話し合い、変化や要望があれば期間に捉われず見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録の確認をしている。申し送り等職員間で情報の共有を図り、週1回の職員会議で確認している。実践や計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院受診や医療処置の付添に柔軟な対応を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや学生の研修の受け入れを行い、民生委員とに意見交換の機会を多く持ち、可能な限り地域での暮らしを楽しむように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連事業所の協力医だけでなく、必要な他科受診が受けられるよう本人や家族の希望時に行っている。また必要時往診をお願いしている。	馴染みのかかりつけ医の受診は家族と行き、希望があれば職員も同行している。メンタルクリニックの往診も月1回あり、専門医療の歯科の往診もある、緊急医療も連携が取れ24時間体制で、適切な医療をうけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>関係事業所の看護師や訪問看護師と相談・助言をおこない心身の変化に応じた支援ができるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に必要に応じた情報の提供を行い、職員が面会に行くことで安心して静養していただけるようにしている。また家族・親族とともに連絡を密にとり、本人の情報の共有化を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>研修の議題に挙げ職員のスキルアップを図り、入居時や家族会・面会時などに話し合い、相談を行っている。プラン見直し時に再度確認行っている。</p>	<p>入居時に重度化や終末期に向けた話し合いを家族の希望を聞いて、ホームとして最大限できる支援を説明し文章化している。職員は定期的な勉強会で方針を共有し、利用者や家族の状況変化による繰り返しの話し合いで、安心が得られる支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>関連医療機関の協力や研修を行い、事故発生・緊急時の対応を職員が同じレベルで行えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。消火器やエレベーターの点検を定期的に行い、訓練等は近隣の方にも声掛けを行っている。	消防署の指導で年2回の防災訓練を実施し、近隣の同系列のホームや医療機関の協力体制も取れている。風向きを察知しての誘導や布団を使っての移動など、避難場所の確認をしている。防災無線や備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・秘密保持の研修やミーティングを行い、意識の向上を図り、プライドやプライバシーに配慮し、入浴や排泄の介助に希望があれば同性の職員が行うようにしている。	全職員が一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないための研修会を定期的に関いて確認している。目線を合わせ耳元でさり気ない声かけやトイレの同性介助など配慮している。個人情報の管理も責任ある取扱いになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	本人の意思・希望が本人の言葉で表現できるよう「決めつけ」ではなく「選択肢」の提示を行い、可能な限り自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や希望に合わせた起床時間や、食事・入浴・昼寝などゆとりを持って行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己決定を大事にし、不足や表現できにくいところは、趣味・趣向に沿えるようにしている。また訪問美容室の利用で整髪・染髪もできるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食への関心が持続できるよう旬の食材利用や、個々の嗜好品を把握し、食材の下ごしらえや配膳・下膳などできることにお手伝いいただくことで職への関心を高められるようにしている。	毎食前の嚥下体操の歌も賑やかで嗜好品やアレルギー調査がされた食事である。ミキサー食の利用者にも原型をみせる配慮がある。料理の下ごしらえや保存食作りには利用者も力を発揮し、年間を通して食を楽しむ支援である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	水分量や食事のチェック表を利用し、職員が把握しやすいようにしている。個々の嚥下や咀嚼状態に合わせた食事形態で提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、口腔内の清潔保持・習慣づけに努めている。毎週の訪問歯科により、よりよい口腔内の状態が保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	排便・排尿記録を利用し、リズム・パターンの把握に努め、おむつ使用でも可能な範囲でトイレでの排泄が出るようにしている。	排泄チェック表でこまめなトイレ誘導を行い、日中はリハビリパンツと布パンツ使用である。入居時はオムツ使用でありリハビリパンツに変わった利用者もいる。気持ちよく排泄できる自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	水分記録や排泄記録を利用し「イン・アウト」の把握に努めメニューやおやつに食材に考慮し、便秘対策をとっている。必要時には主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	時間にとらわれず希望にあわせ、仲の良い方同士の入浴やシャンプー・入浴剤な個人の好みや家族の希望に応じられるようにしている。	入浴を楽しめるように時間帯や入るスタイル、希望日など自由である。シャンプーやリンスも好みの物を持ち込み、体調に合わせて足浴や清拭、個々に応じた入浴の支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムや体調を把握し「昼寝」などの休息がいつでも取れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報もとに、病歴や薬の効能・種類・副作用・服薬方法を全職員が常に把握し、心身の状況に変化が認められた時は、記録に残し医療機関との連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや役割を持っていただくことで、生きがいや楽しみを持っていただけるように支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	関連機関の病院にリハビリや散歩、買い物に出かけることで気分転換や季節感を感じていただけるようにしている。	天気の良い日は散歩を兼ねて買い物に出かけ、リハビリに行く途中の公園で地域住民との会話も楽しんでいる、同系列の合同行事のお寺供養やドライブ、手づくり弁当持参の花見、夏祭りなど、ストレスの発散と五感刺激が得られるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族や本人と所持される金額や管理方法について取り決め、本人の安心感や満足感が得られるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の使用希望時には、職員は席を外すなどプライバシーに配慮し、てがみの代読・代筆・投かんを行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の好みを把握するとともに好みの音楽やテレビ、季節ごとの生け花や飾りを用いて四季を感じていただいたり、導線の確保を行い安全な空間・居心地の良い共有スペースになるようにしている。</p>	<p>明るい共有空間は広い窓がありキッチンからエレベーターを使う利用者が見える造りになっている。畳の間には大きな仏壇が据えられ利用者が自宅に居るような安心感が得られている。3階の居室はモニターで管理され、季節を感じる花や利用者と職員の共同作品であるパズルや貼り絵も飾られた居心地のよい空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>仏間や神棚による心の安定する空間づくりやテーブルや椅子が設置され、家族との歓談や仲の良い方々とゆっくり過ごせる空間づくりをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人馴染みの物や使い慣れた家具や日用品など家族に準備していただいたり、家族の写真など飾り、居心地の良い空間づくりをしている。</p>	<p>利用者の使い慣れた家具や小物が使いやすい位置に並べられ、洗面台や動きやすさを考慮した電動ベットになっている。ポータブルトイレが置いてある居室は昼間は邪魔にならない場所に可愛いカバーをかけて置かれている。本人が居心地よく過ごせるように工夫がみられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各場所入口にプレートで表示している。廊下やトイレに手すりがあり安全の面に配慮している。身体状況に応じポータブルトイレや歩行器を家族・福祉用具業者と相談しながら自立にむけた生活が送れるように配慮している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームしらゆり

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームしらゆり

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない